



Rotary  
Tsuruoka West



国際ロータリー第2800地区

鶴岡西ロータリークラブ

奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

地区方針 **「中核的価値観のもと、時流対応の時」奉仕の心の醸成と実践するロータリアン**

第2587回例会 2022年3月7日(月) 会場: グランドエルサン

◆会長 渡部 芳幸 ◆幹事 池田 拓弥

### 会長挨拶 渡部 芳幸 君



今日が今年2回目の例会となります。まだ収まってはおりませんが、新型コロナウイルスの拡大による陽性者が増えたことにより開催を控えました。私の身近な方の感染や家族全員陽性者などの話も聞こえてきます。

話を聞いたら買い物に行けない為一週間分の食糧が配達されるなどケアは進んでいるようですが、やはり保健所の方でも業務が逼迫しており連絡が遅くなっているようです。現在3回目のワクチン接種が進められておりますがこの状況はしばらく続くかもしれません。

しかしながら、いつまでも例会を休会するわけにはいきません。書面理事会でも記載いたしました、開催か休会か不透明の中ゲストのスケジュールを押さえるのが困難なため、今月は会員スピーチにさせていただきます。急遽のお願いになります。よろしくお願いいたします。

また、大きな話題として、冬季オリンピックなどの大きなイベントがある中、ロシアのウクライナ侵攻が現在も行われております。連日悲しいニュースが報道されており、心が痛みます。奇しくも休会していた2月のロータリー月間は「平和と紛争予防・紛争解決月間」でした。

前回、1月17日の例会にて干支から見る今年起こることをお話させていただきましたが、その中で当たってほしくないことが現実となりました。それが、人災と移民、人の移動です。

皆様、報道で知っている通り、ロシア軍がウクライナに侵攻したことは知っていると思います。その中でもプーチン大統領の行動が常識を乖離しています。まさにこれこそ人災だと感じます。それにより、祖国から非難するウクライナ人が150万人ともいわれております。しかも家族離れ離れです。もちろん両国の主張はあると思いますし、それに付随した隣国や関係国の思惑があると思います。しかしながら戦争はだれも得をしません。私はロシア・ウクライナで起きていることが子供の喧嘩と同じように見えます。それを傍観する大人がおり止めに入らないような光景に見えます。

その中で先日のパラリンピック開会式で演説した国際パラリンピック委員会（IPC）のアンドリュー・パーソンズ会長のスピーチが全ての答えのような気がします。その一部を紹介いたします。

今夜は、まず平和のメッセージから始めたい、いえ、始めなければなりません。

共生を中核とし、多様性を祝い、違いを受け入れることを旨とする組織のリーダーとして、私は今世界で起きていることに強い衝撃を受けています。21世紀は、対話と外交の時代のはずです。戦争と憎しみの時代ではありません。

オリンピック・パラリンピック期間中の休戦は、国連決議として193の国連加盟国の総意で、第76回国連総会で採択されました。それは尊重し守るべきもので、違反があってはなりません。IPCでは、より良い皆が共生できる世界、差別や憎しみ、無知と無縁の紛争のない世界を目指しています。ここ北京には、パラアスリートたちが46の国や地域から集まり、互いに競い合います。闘うではありません。スポーツを通して、彼らは人類の最高の姿を示し、平和や皆が共生する世界の基礎となる価値観を際立たせてくれるでしょう。

## 2021-2022 R I テーマ **奉仕しようみんなの人生を豊かにするために**

パラリンピアンたちは知っています。対戦相手は敵である必要がないこと。ともに歩めば、さらにより多くのことを達成できることを。

今夜、パラリンピックムーブメントは世界各国の当局者に呼びかけます。アスリートたち同様一つになり、平和、理解、共生を促してください。世界はともに生きる場であるべきです。分断されてはなりません。

スピーチの最後には、両手の拳を握りしめ「ピース！」と叫びました。

当たり前が当たり前でない時代になっています。平和が当たり前でない時代になるかもしれません。私も戦争を知らない世代です。改めて危機管理・安全保障そして平和を考えることが必要と感じました。

世界平和を心から祈ります。

### 幹事報告 池田 拓弥 君



- ・ロータリーの友 購読料改定のお知らせ 2022年7月より 250円(税別)
- ・ウクライナでの悪化する人道的危機に直面している地区を支援するためのメール  
ロータリー災害救援基金への寄付のお願い R I
- ・会長エレクトセミナー(PETS)開催案内 3月12日(土) 10:00~
- ・ロータリーレートのお知らせ 3月 116円

### 誕生祝い

2月 鈴木 孝純 君  
辻 博智 君  
3月 井上 彬 君



### 会員スピーチ

会長エレクト  
辻 博智 君



- ・PETSに向けてのクラブ内方針  
グループディスカッション

### ニコニコBOX

- ・齋藤 浩子 君 1/24の寒タラ例会では、たくさんのお弁当を注文いただきありがとうございました。来年こそは皆で集まりにぎやかな例会になりますように。
- ・池田 徳博 君 久しぶりの例会。嬉しくもありますがコロナ・ウクライナの事を考えると心が晴れません。

本日の出席	会員数	29名	出席数	19名	出席率	65.52%
前々回の出席	出席率	75.86%	修正出席者数	24名	確定出席率	82.76%

① 会員増強について

- ・ 国際理解、世界平和についての活動。クラブのPR。 ⑥に通ずる
- ・ 社会のためになる活動をもっと積極的に行いPRする ⑥に通ずる
- ・ 例会回数の見直し（月2回+夜例会）
- ・ JCメンバーへの声掛け、夜例会への誘い
- ・ 入会候補者（入会させたい人を夜例会へ招待）。夜例会を増やす。
- ・ 会員一人ひとりが積極的な呼びかけ（声掛け）  
（高齢化、少子化の波に流されている）
- ・ ロータリーの魅力はなんなのかをキッチリと伝えられるか（各個人が自覚すること）
- ・ 様々なサークルや団体が乱立するなか、RCの魅力は何かこれを前面に伝えられないと会員増強は難しい
- ・ 会費を検討する（たとえば40歳以下の若い世代の会費を安くするとか）
- ・ 各クラブ毎、毎年1～2名の純増を目指す
- ・ 親子会員や同一企業複数会員を検討する
- ・ 西クラブとしては最低30名の会員維持を目標とする。クラブ毎の特色を生かしそこから上積みを図る
- ・ コロナ禍のなか仕事が大変で勧誘は難しい。個人個人で声掛けする魅力あるRCでなければ難しい。

② 奉仕プロジェクトにつて

- ・ 他団体との共同活動
- ・ 「だれ」「何の」奉仕が必要かを今一度検討する
- ・ コロナ禍の影響で「奉仕」する事業が少なくなっている。
- ・ お金だけの奉仕ではない活動を計画するべき。
- ・ 毎年違う活動を企画することによりRCが活性化する
- ・ ポリオ根絶への取り組みを継続してほしい
- ・ ナンバースクールサッカー大会の他に、地域に貢献していることを認識できる奉仕活動  
（たとえば植樹。桜の苗木の植樹）
- ・ サッカー大会は継続事業。海岸清掃も継続したほうが良い。IAC、中央高校青少年の交流
- ・ 委員長が毎年交代するので継続事業になりがち。委員長を複数年任期にし「進化」「深化」するよう心がけ、2～3か年の事業とし、その後見直すような仕組みがよいのでは。
- ・ 今までのプロジェクトの継続ではなく、新たなプロジェクトに切り替える時期では。

③ リーダー育成について

- ・ PGの他に、毎年2名程度を地区委員会へ派遣するべき。
- ・ もっと積極的に地区委員へ参加するべき

④ ロータリー財団支援について

- ・ 地区目標額を達成させる

⑤ 米山奨学会支援について

- ・ 地区目標額を達成させる
- ・ 米山奨学生との触れ合いの機会を増やす（例会への招待）

- ⑥ クラブの公共イメージと認知度の向上について
  - ・他団体との共同活動（②と重複）
  - ・②の地域奉仕活動を積極的に行い、その実績をアピール（新聞・テレビ・マスコミ）
  - ・SNSを使用
  
- ⑦ クラブとして、ロータリーを学ぶ方法について
  - ・最低年2回「ファイヤーサイドミーティング」を行う。その際に外部（入会させたい人も呼ぶ）
  - ・各クラブ独自の資料を作る。
  - ・それぞれのロータリー生活の印象的なことを述べあい共有する活動を試みてはどうか。
  - ・地区委員長の卓話機会を増やす。（他クラブのPGを招いての卓話）
  
- ⑧ その他
  - ・この状況下（コロナ禍）で多くは望まず、最低でも「現状」を維持することを目標とする
  - ・会員数が多かったときは、クラブ会員内でももっと交流があった（活気があった）
  - 今は少ない会員数のためか、まとまってしまっている印象がある。